

平成29年度 JAQG活動報告会でのコメントに対する回答

コメント	回答
2. 知りたい内容がカバーされていましたか？	
P2.8-13 日本での模倣品等のデータを収集しているシステムがあればご教示下さい。	日本では、未だその様なシステムは運用されておりません。
オーストラリアはAPAQGメンバーになるのですか。他AMERICAO OR EUROPEになるのですか。	APAQGはオーストラリアをカバーしていますので、在オーストラリアの組織はAPAQGへの参加が可能です。
規格検討で、APQP, PPAP, FMEA・・・を取入れています。自動車関係との違いなどがあれば知りたいです。FMEAについては、AS13004との違いがあるのでしょうか？などの説明があると助かります。	9145規格(航空宇宙APQP/PPAP)は自動車業界の考え方がベースにありますが、航空宇宙産業の特性“少量生産/長いライフサイクル/厳しい規制要求”を考慮した規格要求になっています。FMEAに関して、9145規格では詳細な実施方法は規定していません(参考としてSAE J1739を挙げています)。AS13004は、9145規格フェーズ3で要求されるPFMEA等の手法として適用することが可能です。
日本の組織の9100:2016版への移行はどのような状況か。	毎月のJAQG幹事会で、JRMCOから組織の9100:2016への移行状況が報告されています。JAQGメンバー会社であれば、幹事会議事録はJAQGメンバー専用ページ(下記URL参照)で閲覧可能です。 http://www.sjac.or.jp/jaqq/member/modules/smartsection/category.php?categoryid=5
日本の組織のQMSパフォーマンスの向上状況に関する分析等の活動は起こらないのか。	現状はIAQG PERFORMANCE GROUPで調査分析を進めています。JAQGとしては現在の戦略活動の中には固有の活動を計画しておりません。
3. 活動報告会は分かり易かったですか？	
新OASISの操作で、JIS Q 9100審査でのNCの是正対応を説明があると助かります。	JAQGでは、IAQGが発行している新OASIS操作マニュアル和訳版を作成、JAQGホームページに掲載しています。下記URLからアクセスし、“NCRの管理”マニュアルをご参照ください。 http://www.sjac.or.jp/jaqq/data/oasis.html
4. 報告会全般について満足されましたか？	
5. JAQG活動の方向性/活動内容に満足されましたか？	
一連の不祥事(検査データの改ざん等)及び墜落事故などに対し、JAQGとして何かしらアクション(対処方針(対組織、対審査機関)の検討)が必要なのではないでしょうか。	会場でご質問にて回答さしあげたとおりですが、個々の発生事象に対して分析をする立場にはないが、規格、ガイドライン文書、認証制度などJAQGのアウトプットにおいて改善できるところについて議論しながら進めていきたい。
Nadcapチェックリスト日英対訳版について、取得が少ない項目を和訳版を作成して欲しいです。	今後、JAQGメンバー様向けホームページに掲載するAC日英対訳版の範囲を拡大する方向で検討中です。具体的にどのACについて新たに和訳版を準備するかについては、メンバー様のご要望や対訳版作成のリソース、優先度を考慮しつつ、決定して参ります。
6. 質疑応答の時間は十分でしたか？また質問内容に満足されましたか？	
7. JAQGIに期待する項目を回答下さい。	
「IAQG OPMT Resolution」に関する「JIS Q 9100認証制度関係基準」としての適用期日を明示してほしい。(cf. No.148「ADC必須要求」は2017.12.20有効とあったが、「JIS…基準」への掲載が2018.1.31付で解釈に困ったため、JRMCOとしての方向性を明示してほしい。)	JAQGのウェブ「JIS Q 9100認証制度関係基準」に記載されているレゾリューションの文章は参考です。IAQG OASISにリンクされているレゾリューションが正となりますのでこちらを御確認願います。適用日も、こちらに記載されている適用日が適用されます。
SCMHの資料活用事例を増やして頂き、多くの企業が情報を共有できれば良いと思います。SCMHの講習会を開催していただけるような計画はないのでしょうか？	共有出来る活用事例はJAQGでも有しておりませんので、その様な事例があれば御紹介頂きたく存じます。なお、H30年度にSCMH説明会を開催する予定です。
欧米ですでに3Dプリンターの航空機エンジン部品の製作が行われていますが、日本でも工法や工程の規格を作り、グローバルスタンダードを目指すべきだと思います。	JAQGでは工法や工程など技術的な規格については扱いません。なお、3Dプリンティング(Additive Manufacturing)の技術的な開発・実用化については、日本国内では産総研を主体とするTRAFAMという組織がASTMやISOと連携しながら、また内閣府が「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」の中でそれぞれ取り組んでいます。
Nadcap Handbook & guidelineの日英対訳版の提供をして頂きたい。	各種HDBK及びGuidelineの和訳についてはPRI本部と調整した結果、対訳版の提供は困難な状況です。
Nadcapの取得状況、ACチェックリストの和訳整備状況などの情報提供をお願いします。	引き続き、メンバーの皆様への情報提供を進めてまいります。なお、Nadcapの取得状況については、PRIのインターネットサイト“eAuditNet”のIDをお持ちの方であれば、同サイト内にて最新状況をご確認頂けます。また、JAQGでのACチェックリスト対訳版の整備状況については、JAQGのパブリックウェブサイト(http://www.sjac.or.jp/jaqq/data/nadcap.html)で最新状況をご確認頂けます。
航空宇宙業界の今後の流れとして、MRO分野の進展が期待されますが、AS9110及びAS9120のJIS化についての動向があれば紹介して頂きたい。	9110については現在ユーザー様、国土交通省様と意見交換しながら認証制度の活用可能性について検討を進めています。他セクターの動向も踏まえ認証制度の活用拡大の方向性が見えた段階でJIS化の検討を進めています。 9120については会員様のニーズを確認しながら進めていきたいと考えています。
9. SJAC規格について、要求事項の明確化・強化等の改善が必要と思うものがありましたら、規格番号と理由等を記入願います。(規格番号については、規格検討WG報告ページを参照願います。)	
SJAC9068 最近の不祥事を反映し、特にTopレベルへの記載させる必要を感じる。Topに対するバックデート根絶キャンペーン等の工夫も必要と感じる。	JAQG独自活動の一つである規格共通化において、その出口の一つとして品質不祥事事案に対する対応も進めていく予定です。
各規格すべてに関する要望。要望:ISO9001のように原文(英文)含めて欲しい。あるいはAS規格も販売して欲しい。理由:訳した根拠が分からない。	IAQGで検討された原案をもとに、各セクター毎に技術的に同等と認められているセクター規格(JIS/SJAC規格、AS規格、EN規格)を発行しております。元になるIAQG規格原案は各セクター規格を発行するためにのみ用いることが許されており、発行/販売もされていません。AS規格に関しては、SAE(Society of Automotive Engineers)にお問い合わせください。
SJAC9101:チェックシートを復活して欲しい。内部監査の適合性確認で活用したい。	9101チェックシート(OER)は、規範的すぎるという理由で、規格のD版からE版への改訂で削除された経緯があります。今回のような要望が今後も少なからず出てくるようであれば、検討いたします。
SJAC9146 FODの要求は機体組立についてのものであるため、部品メーカー、加工メーカーには展開し難い。組立以外のメーカーが実行すべきことを明確にして欲しい。	9146規格は、箇条1(適用範囲)にあるとおり、対象を組立業者に限定していません。例えば、4.5(製品保護)については、部品供給者であっても、納入品による顧客での異物による損傷のリスクに影響することから、適用可能と考えます。9146規格を使用する場合、顧客の要求事項や自組織の提供する製品・サービスの特性等に応じてFOD防止プログラムを実施することが求められます。
10. その他 要望・コメントがあれば、以下にご記入下さい。	
全体的に、企業に対して利益につながる事項がなく、目的が不明確である。JAQGとして、HP以外に何かエアロスペースビジネス拡大の為の活動は考えておられますか。コミュニケーションによる仕事の要望や、困っている事etc、情報入手をしたい。	現在の中長期戦略の中では特に考えておりません。JAQGIは品質をキーワードとする活動が前提ですので、要求事項の共通化や、第3者認証制度の活用、品質の向上が企業の利益につながることを今後も広く提案していきます。

平成29年度 JAQG活動報告会でのコメントに対する回答

コメント	回答
増加している宇宙ベンチャー企業への対応をどのように考えますか？	IAQG Space Forumでは宇宙ベンチャー企業(Space XとSierra Nevadaなど)とコンタクトを開始しており、今後の対応について相互に意見交換することを考えています。 日本国内でも宇宙ベンチャー企業との接触はいずれ必要になってくると考えていますので、将来的にはベンチャー企業との、品質管理についての意見交換などを検討していきたいと考えています。
社内への教育資料として、活動報告会のパワーポイントをJAQGホームページで公開して欲しい。	活動報告会で使用した資料は、JAQGホームページに掲載しておりますので、ご利用ください。 http://www.sjac.or.jp/jaqq/conference/seminar.html
製品安全を強く認識させるため、教育に使用できる様な「事例」(事故、コンプライアンス違反など)について定期的に情報配信して頂きたい存じます。	ご要望の事例は、その性格上当事者からの情報提供は容易なことでは無く、従って定期的に発信することも同様と考えます。SCMHの活用事例を望むというご要望を頂いておりますので、それと併せて今後対応させていただきます。
SJAC9138は、業界のスタンダードとして、展開しなければならない(展開すべき)規格なのかが良くつかめない。製造業として、対応していくならば、それなりの準備が必要となるが。関連して、SCMHの3.11章MSAとの関係(取り入れるべきなのか)がよくわからない。	9138規格を含むIAQG規格は、主要OEM会社であるIAQGメンバーを対象としたニーズ調査の結果を踏まえて規格制定されますので、それらの組織が今後利用することが想定され、顧客要求として含まれる場合は対応が求められます。SCMH資料はIAQGが有効なものとして提供するガイダンス文書ですので、顧客要求や取り扱う製品・サービス等、組織の状況に応じて利用をご検討ください。
JISQ9100を知らない者に9100の概要を説明するときに、9001:2015と、9100:2016の差分の概要をまとめた展開文書があると良い。現状の展開文書は、9100:2009に対する9100:2016の差分なので使いにくい。	9100:2016のAQMS追加要求事項に関しては、SJAC発行の9100解説書等が既にあり、特に概要説明資料を作成するニーズはないと考えますが、今後の状況に応じて検討します。
SJAC9138についてBoeing D1-8007への適用等について具体的な事例を紹介して欲しかった。	JAQGとしては各顧客組織の要求事項での9138適用事例等、個別顧客要求については関与いたしません。顧客と調整や製品に応じて、SCMH文書等も参考にして、組織ごとに適用方法を設定することが期待されます。
航空産業向けの非破壊検査員の育成について、NAS-410に対応したトレーニング、試験、認証について、経済産業省をまじえた動きがあるとのことですが、Nadcap以外のこのような活動はJAQGとは別のものとなるのでしょうか？航空産業向けにJSNDI関連の説明もしていただければありがたいと思います。	お尋ねの非破壊検査員育成に関する活動はJAQGにおける活動とは別のものになります。このような動きに関する詳細は、NANDTB-Japan(日本航空宇宙非破壊試験委員会)のホームページ(http://www.jsndi.jp/nandtb/)をご参照下さい。
Nadcapの日本人増員について、昨年の活動報告会でも3人だったと記憶しており、そういう意味では1人も増えていない。これについては改善(増員)される見込みはあるのでしょうか。	日本人監査員の増員に向け、PRI及び候補者への支援を引き続き実施してまいります。
Nadcapの説明会(テキストP22)以外にあれば情報を頂きたいです。	PRI日本事務所様に確認しましたが、現状では、活動説明会資料に掲載した情報以外には、説明会は無とのことでした。また、参考情報ですが、JAQGメンバー様専用HP内には、Nadcap初心者向け資料(PRI資料の和訳版)を掲示しておりますので、適宜、ご参照下さい。
また、統計的手法のセミナーがあれば情報を頂きたいと思います。よろしくお願ひします。	個別の規格に関するセミナー等の予定はありませんが、9138規格関連の展開支援文書・SCMH文書がIAQGで公開されており、今後和訳作業を予定しています。
企業の不祥事多発に関しSJAC9068が改定されるとのことですが、海外企業では「航空宇宙産業に関するビジネス倫理の国際原則」の活動がされている。このためかLM(Lockheed Martin), NG(Northrop Grumman), NCT等海外企業はサプライヤに対し、企業倫理を要求し、Webでも公開されている。日本では「航空宇宙産業ビジネス倫理要領」を策定し、これを活用するとのことであるが、何処で見られるのか教えて欲しい。また、JAQG活動報告会で特別講義をして頂きたい。	日本航空宇宙工業会(SJAC)では、2008年「航空宇宙産業ビジネス倫理要領」を策定しSJAC会員向けに配布しております。航空宇宙産業界の動向、SJACの取り組みに関しては、「航空宇宙防衛産業の企業倫理の実践に関する国際フォーラム」への参加報告をSJAC会報に掲載しておりますので、そちらをご参照ください。 http://www.sjac.or.jp/common/pdf/kaihou/201802/20180203.pdf
Nadcap日本人監査員増員と同様主旨でAS9110(EN9110)、AS9120 (EN9120)⇒JIS Q 9110及び9120への格上げを予期(期待)してJRCAIにおいて、JIS Q 9110及び9120審査員(AEA,AA)資格付与のプロセスについて検討して頂けたらと思います。MRJの量産、F-35のFAO(Final Assembly and Check Out)、可能性は低いがUS-2C-2の輸出あるいは機器(装備品)のオーバーホール、アジア・パシフィック地区への進展が期待できると思います。さらにAS9120については、スペース分野での衛星ビジネスに於いて需要が高まると期待できます。	JIS化や審査員資格付与への対応については日本での9110や9120への認証制度の拡大と一体となって実施されます。その認証制度の拡大に関しては現在ユーザー様、国土交通省様と意見交換しながら認証制度の活用可能性について検討を進めています。他セクターの動向も踏まえ認証制度の活用拡大の方向性が見えた段階で検討を進めていきます。9120については会員様のニーズを確認しながら進めていきたいと考えています。